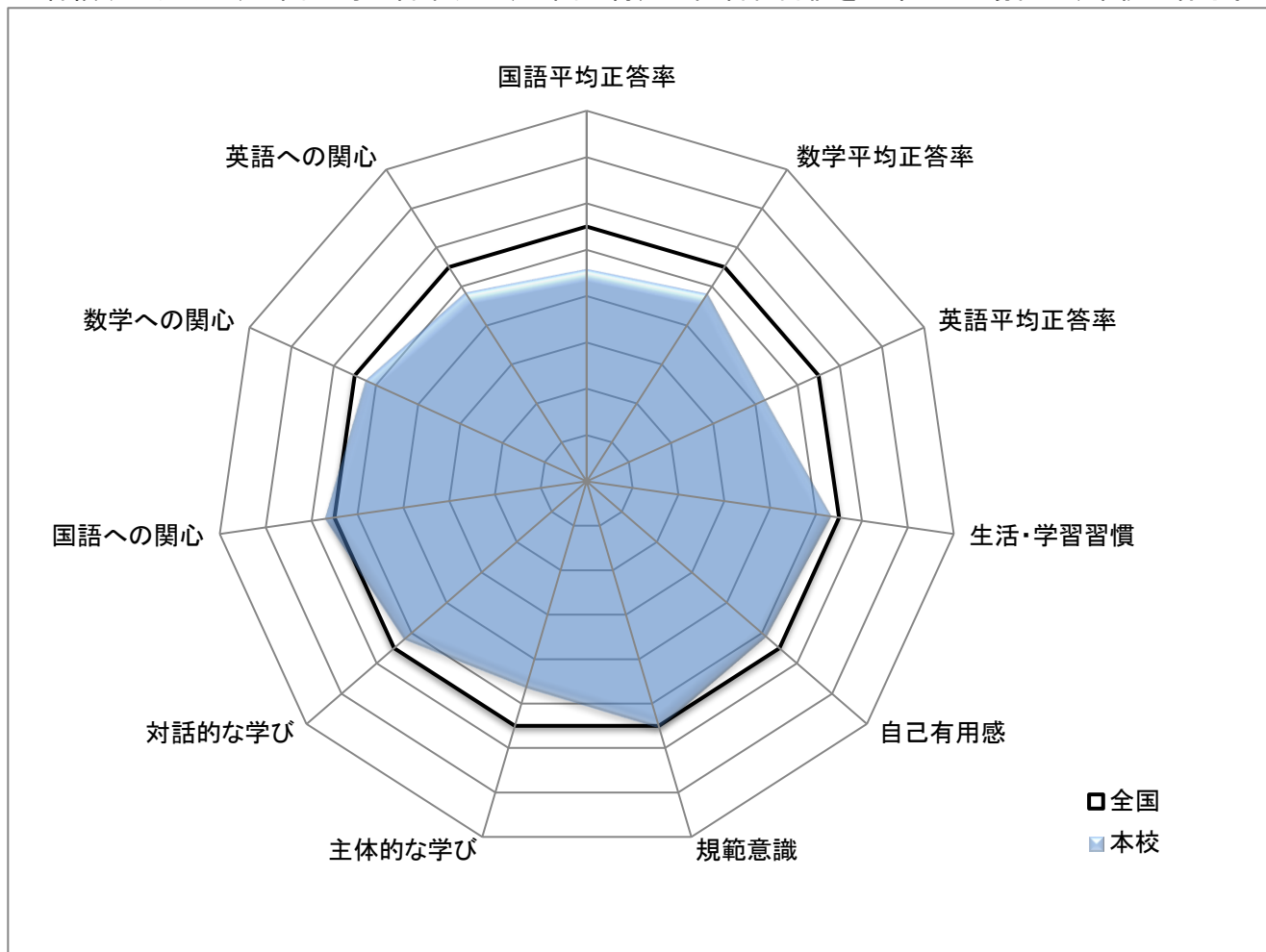


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

自ら計画を立てて主体的に学習に取り組める生徒が少ない。また、定期考査前は提出物をこなし終わっている生徒がほとんどである。しっかり計画を立て、見通しをもって学習に取り組む必要がある。授業中、説明を受けたばかりの時は答えられるが、次の授業では答えられないことも多い。家庭学習の習慣と学習内容の積み重ねが難しく、確かな学力へとつながっていない。

《授業改善のポイント》

指導者が一方的に説明する講義型の授業にならないよう、生徒の意見を取り入れ、主体的・対話的な授業を実践し、学習に対する関心へとつなげていく。また、「できる」「わかる」と思えるような発問や設問を設定し、「できた!」「わかった!」と感じさせることで、自己有用感を高めていけるような授業を組み立てる。このような取組を重ね、学びと喜びとのつながりから、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせていく。
 岩五リズム(生活リズム、学習リズム、運動リズム)を浸透させ、授業力改善のポイントとする。

《チャートの特徴》

教科への関心、規範意識が高い値をもっているのに対し、正答率が大幅に平均を下回っている。この要因は「主体的な学び」の値が低いことと関係があると考えられる。まじめに学習に向かおうとしている生徒たちが自ら考え、主体的に学ぶ姿勢、意欲が身に付いていよう、「岩五リズム」の中の『学習リズム』にある自分に合った学習法の確立について、自ら考え、模索していけるように授業改善、工夫をしていく。

《家庭・地域への働きかけ》

授業中はまじめに耳を傾ける一方で、提出物への取組や家庭での学習時間の確保ができていない生徒が多い。学年だよりや保護者会等で学習の状況や取り組む姿勢について理解いただけるよう伝えていく。
 岩五リズムを周知徹底していく。